

第 2 回南和保健医療圏地域医療構想調整会議における主な意見**【医療提供体制の構築】**

- 南和の公立病院の再編成により、現在保健医療圏外に流出している患者を南和保健医療圏で受療できる流れを作っていく。
 - 大阪、和歌山との患者の流入流出の府県間調整の協議において、今後の体制整備による患者動向の変化があれば見直すこととしている。

【在宅医療の体制構築】

- 在宅医療が 6 千人増える推計になっているが、実態の把握にはもう少し違う指標があった方がいいのではないか。
 - 高齢化が進んでいくことを考えた場合、在宅医療の伸びは大きくなると考えている。

【在宅医療の人材確保】

- 病院の退院調整を行う看護師やケアマネージャー、社会福祉士が交流を持つ場を作っている。このような取組を広げていけば在宅に有効活用できる人材が育成できる。

- 現場の業務に手を取られて訪問看護師の研修会に参加できない実態があるので、課題を解決できるような取組を検討してほしい。

【在宅医療と介護・住まい・生活支援】

- 医療と介護の連携をうまくやっていく必要がある。

- 地域包括ケアについて、大淀町が県のモデルとなるような取組をやろうとしている。

【県民への普及啓発 等】

- 在宅や退院調整を行う看護師が少なく苦勞している現実がある。医療機関の連携や在宅医療を進めるには、医療機関を選択する県民や家族の理解を得られるようにアピールしていく必要がある。